

教育の問題を考える

第1講

体育教育と社会

9/8(木) 房前 浩二 教授 (健康スポーツ科学科)

第2講

ICT 社会と情報リテラシー教育

9/15(木) 佐藤 真司 教授 (経営学科)

第3講

地域包括ケア時代の福祉教育

9/29(木) 杉本 浩章 准教授 (福祉学科)

第4講

幼児のことばを考える

10/6(木) 加知 ひろ子 教授 (こども学科)

第5講

性教育を考える

10/13(木) 若井 和子 教授 (看護学科)

平成 28 年度

福山平成大学公開講座

日 時：9月8日(木)～10月13日(木) 全5講座 18:30～20:00

会 場：福山平成大学7号館大講義室 <http://www.heisei-u.ac.jp/info/map.html>

平成28年度福山平成大学公開講座は終了いたしました。
多くの方々にご来場いただき、誠にありがとうございました。

申込期間：8月1日(月)～9月2日(金)

申込方法：別紙、受講申込ハガキに所要事項を記入の上、郵送または持参

受講料：無料

定 員：250名

受講証：5講座中4講座以上の受講者に受講証を授与

申込及び問合せ先：庶務課

〒720-0001 福山市御幸町上岩成正戸117-1

TEL：(084) 972-5001 FAX：(084) 972-7771



※本学へお越しの際は、公共交通機関もしくは自家用車等をご利用ください。詳しくはHP参照

主 催：福山平成大学

後 援：福山市 福山市教育委員会 福山商工会議所 府中商工会議所

尾道市 尾道市教育委員会 尾道商工会議所 三原市教育委員会 三原商工会議所

教育の問題を考える

いま、教育にかかわる大きな改革が動いています。「関わり/つながり」は、世界の相互依存・多文化共生社会を背景に、21世紀の教育のキーワードとなっています。人と人、人と自然、人と社会など多様な「関わり/つながり」ができ、良好な関係を構築できる人間の育成が、教育の重要な課題となってきました。本講座では、「関わり/つながり」の視点から、家庭・地域・社会・世界と関わる教育の問題を考え、提言します。健康スポーツ科学科の房前浩二教授から「体育教育と社会」、経営学科の佐藤真司教授から「ICT社会と情報リテラシー教育」、福祉学科の杉本浩章准教授から「地域包括ケア時代の福祉教育」、こども学科の加知ひろ子教授から「幼児のことばを考える」、看護学科の若井和子教授から「性教育を考える」を計画しました。

第1回 9月8日(木) 体育教育と社会 房前浩二 教授 (健康スポーツ科学科)

現在、平均寿命が男女とも80歳を超え、90歳まで生きる確率は、男22.2%、女46.5%と世界でも類を見ない高齢化社会になりつつあります。こんな社会情勢から、運動・健康・安全教育をにう学校体育のねらいに『生涯体育』が大きく取り上げられるようになりました。学習指導要領では、『心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる』とされています。体育教育は、『結果』でなく、学ぶ間に体力・運動能力・自主性・考察力・工夫・努力・挑戦・我慢・チームワーク・礼儀、等々を身に付けます。その『過程』が重要であります。現在、「やらされている体育」から「自ら取り組む体育」、「たのしい体育」が展開されています。そんな高齢化社会やそれに対する学校体育の役割とそれらの現状を紹介いたします。

第2回 9月15日(木) ICT社会と情報リテラシー教育 佐藤真司 教授 (経営学科)

近年、情報化社会の進展は著しく、情報は私たちの生活にとって必要不可欠なものになっています。そうした中で、コンピューターやネットワークなどの情報通信技術(ICT)の発展にともない、情報教育の必要性が生じ、その内容が変化してきました。当初、コンピューターを扱うのは主に専門の技術者で、プログラミングやシステム開発などを中心とした情報処理教育が行われていました。しかし、今日の情報化社会では、パソコン、スマートフォン、タブレット端末などの情報通信機器が身近なものとなり、誰でも簡単に情報を入手することができます。これらを安全かつ効果的に活用するための情報教育(情報リテラシー教育、情報セキュリティ教育)が重要視されています。また、ICTを学校教育や社会教育で活用して、教育の情報化を図る取組も行われています。本講では、このような情報教育の現状についてお伝えしながら、家庭での情報教育などについても皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

第3回 9月29日(木) 地域包括ケア時代の福祉教育 杉本浩章 准教授 (福祉学科)

団塊の世代が後期高齢者となる「2025年問題」を見据え、今、地域包括ケアシステムの構築が推進されています。地域包括ケアシステムは、果たして、国が目指す“可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる社会”をもたらすのでしょうか。その成功の鍵を握るキーワードの一つが「福祉教育」です。そこで本講では、まず、マクロレベルにおいて社会保障制度・政策と福祉教育の関係を概観します。次に、地域包括ケアシステムと福祉教育とのかかわりを整理、地域の福祉力について考えていきます(メゾレベル)。そのうえで、ミクロレベルでは高齢者の看取りに着目し、質の高い看取りの実現と福祉教育について、現在取り組んでいる調査研究の成果を交えお伝えしたいと思います。

第4回 10月6日(木) 幼児のことばを考える 加知ひろ子 教授 (こども学科)

「うまんま、うまんま」と言っていたかと思うと、あっという間に、話ができるようになっていく「幼な子」、愛らしくも頼もしいと思いませんか。例えば、「ミジカソデ」、「カミ アルナイ」、「クック クック」などの幼児の発話を場面や状況などを手がかりにその意味を探りながら、「幼児の思い」や「幼児の心の世界」を見てみましょう。そうすれば、乳幼児がもつ潜在的な力に気づくはずで、このような能力が伸び伸びと発揮できる条件(環境)とは何でしょうか。また、何のためにことばを発するのでしょうか。おそらく大好きな他者に自分の思い、驚きや感動を伝え、その気持ちを分かち合いたいからではないでしょうか。身近な他者とかわっていききたいという思いが、ことばの発達を促します。幼児がことばを自ら学習し、創造的に、主体的に獲得している、その姿をお伝えできればと思っています。

第5回 10月13日(木) 性教育を考える 若井和子 教授 (看護学科)

私たちは誰から性教育を学び、何を情報源に利用してきたのでしょうか？歯磨きや手洗いなどの健康管理行動は、幼児期に親や教師から繰り返し教わることで身につきます。しかし、性の健康管理については、誰も教えてくれません。なぜなら、親世代の私たちが正しい性教育を受けてこなかったために、子どもや孫にどう教えて良いのか戸惑い、消極的になるからです。私たちは、性に関する情報を集め、自己流の学習をしてきた経緯があり、性教育に対するとらえ方が人によって様々です。私たちには、幾つかのライフステージがあり、各ライフステージにおける課題を経ながら発達を遂げています。性教育を学ぶ機会が少ないと、性の健康管理に苦悩することがあります。自己のライフステージにおける性の健康リスクを回避するための性教育についてお話したいと思います。